

# 分科会発表概要

## 第1分科会：「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の指導について

①長野県丸子修学館高等学校（発表者 教諭 中野 篤男）

発表題目：「産社」と「総探」から考えるこれからの総合学科

概要：総合学科18年目を迎えた本校の「産業社会と人間」および「探究基礎」（総探）、「総合研究」（総探）、「キャリア・レッスン」（総探）の指導内容の変遷と課題について報告します。具体的には、アドバイザーリスト、講座選択説明会（裏テーマ：教員研修）、講座選択検討会議（全職員で全生徒を見る）、エンゲージメントカードを活用した自己理解ワークなど本校の取り組みを紹介しながら、科目選択指導、産社と総探のつながりといった諸課題と総合学科の未来について先生方と考えていきたいと思っております。

②香川県立三木高等学校（発表者 教諭 廣林 研史）

発表題目：産業社会と人間「進路探究」（総合的な探究の時間）を繋げた「総合学科3年間の生徒育成プラン」

概要：本校は、令和元年度より1年次「産業社会と人間」、2・3年次「進路探究」（総合的な探究の時間）を有機的に繋げることにより、「3年間の育成プラン」を実施しています。本校の校訓である「自主」「自律」「友愛」を元に主体性の育成を目標として掲げ、主権者として地域を支えられる生徒の育成を目指しています。5年間、自治体や中小企業、大学等の外部組織と連携し、履修計画を軸に進路意識の向上を図っています。現在は、学年の枠を超えて生徒が学び合う仕組みもできています。自走する生徒たちの姿を紹介します。

## 第2分科会：教育課程編成及び展開上の諸課題について

①茨城県立高萩清松高等学校（発表者 教諭 揚石 俊志）

発表題目：「教育課程編成における課題、及び、総合学科におけるタイムスケジュール」

概要：茨城県北部に位置する創立18年になる全日制的総合学科です。地域社会から必要とされる人材育成を視野に、総合学科の役割を日々研究しています。また、地域が抱える少子高齢化や人口減少の問題においても、総合学科の果たすべき役割を検討しています。分科会では、教育課程編成に止まらず、系列選択、時間割の作成についても、生徒の視点から触れていきたいと考えています。

②宮城県立本庄高等学校（発表者 主幹教諭 松浦 啓一郎）

発表題目：Honjo学実践を通して

概要：本校は、大正2年4月に農学校として開校し、創立112年を迎えた歴史と伝統を持つ学校です。この間に多くの学科改編を繰り返しながら、平成13年には普通・食農・商業・生活文化系列が学べる総合学科、また東諸県郡唯一の高等学校として、地域に貢献できる人材の育成を目指した教育を行っています。今回は、魅力的な教育課程を編成し、生徒の進路実現をより実効性のあるものにする「Honjo学」の実践事例をご紹介します。

## 第3分科会：「キャリア教育」・「進路指導」の在り方について

①福島県立小野高等学校（発表者 教諭 渡辺 郁子）

発表題目：「夢をカタチに」する総合学科校～自己理解から地域課題探究までの系統的な学び～

概要：本校は現在、全校生徒数91名の小規模校です。個々の生徒が身に付けるべき力をルーブリック評価表にて自己診断しながら、1年次「産業社会と人間」、2年次「総合的な探究の時間」、3年次「課題研究」での系統的な学習活動や、段階的に計画された進路行事等に取り組んでいます。地域の風土や文化、産業に興味関心を持ち、自己理解を深めながら、生徒のキャリア発達、進路実現を図る学習プログラムを御紹介いたします。

②鳥取県立青谷高等学校（発表者 教諭 奥田 政治）

発表題目：「ミライのジブンをつくる」～総合学科だからこそできるキャリア教育～

概要：本校は鳥取県東部地区と中部地区の中間に位置する、海まで徒歩5分の小規模総合学科です。1999年に総合学科となり、四半世紀を迎えました。地元での就職率の高い学校であり、近年は特に地域連携とICT推進とを柱に据えた学習活動を展開しています。小規模総合学科だからこそできる学習活動について、地域連携の様子と総合的な探究活動について報告します。さらにキャリア教育の現状と課題、そして展望を報告します。

## 第4分科会：総合学科としての特徴的な取組・特色ある取組について

①香川県立観音寺総合高等学校（発表者 教諭 岩中 妙子）

発表題目：地域で活躍できる人材育成を目指したESD教育（持続可能な発展のための教育）の推進

概要：本校はユネスコスクールとして、地域と連携した探究活動や特別活動を通して持続可能なカリキュラムの実施とコミュニティの創造を目指しながら、地域に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。より専門的な探究活動を行い包括的な教育活動となるよう地元専門学校とは高専連携協定、香川県中小企業家同友会とは包括連携協定を結んでいます。さらなる学校活性化のための教育実践例について発表いたします。

②北海道清水高等学校（発表者 教諭 餌取 和臣）

発表題目：特色ある探究活動と地学協働を目指して

概要：本校は、平成9年度に北海道で最初の総合学科としてスタートした学校です。社会創造、科学技術、食品ビジネス、保健福祉の4系列があり、進路に応じた多様な科目選択が可能となっています。北海道・十勝という自然豊かな環境のもと、地元企業とのスイーツの共同開発、観光協会や町議会への参加など、学校と地域が一体となった地学協働を目指しています。また、次代の地域を支える有為な人材を輩出するため、地域課題等を題材に産業振興や地域創生に資する教育を行い、少人数指導により、生徒個々の学習課題を克服させ、確かな学力を身につけさせることを目指しています。

## 第5分科会：総合学科の成果と課題について

①岐阜県立益田清風高等学校（発表者 教諭 横井 宏次）

発表題目：地域と学校と人がつながる教育実践からふるさとを考える

概要：本校は普通科、商業科、総合学科の3つの大学科が設置されており、総合学科では4つの系列を用意し、それぞれの目標に向かって学習しています。目指す学校像である「地域に学び 地域と育ち 地域に貢献する学校」を実現するために、各系列の特徴的な取り組みや地域と共に積み上げてきた実践を報告いたします。また、下呂市唯一の高等学校として担う役割を果たすための取り組みとして、地域を大切に育む活動について発表します。

②兵庫県立和田山高等学校（発表者 教諭 黒崎 真理子）

発表題目：地域と連携した探究活動～地域とつながる「わだやマーケット」～

概要：本校は、「地域を愛し、地域に根付き、地域に貢献できる」生徒の育成を教育目標に、社会人として求められる力を身につけられるような教育活動を行っています。前身の和田山商業高校時代の伝統を継承し、地域と密接な連携をとりながら、総合学科としての特色ある取組を実践しています。その中でも本校を代表する取組「わだやマーケット」を中心に成果と課題について報告させていただきます。